

# 油

## の流出事故を防止しましょう



県内では、灯油などの油が河川等へ流出する「油流出事故」が毎年200件以上発生しており、事業場に設置される貯油タンクやその配管の破損、油水分離槽の管理不徹底などを原因とする事故も多く通報されています。

油流出事故は、環境汚染のほか火災の危険、水道取水の停止、農業被害などが発生するおそれがあり、原因者は、その対策費用を求められることがあります。

以下の事項に注意し、油の流出を防止しましょう。

### 注意事項



1

貯油タンク、配管の点検を定期的に行い、故障や破損などがあった場合は、適切に修理する。

2

積雪や落雪、除雪により貯油タンクや配管が破損しないように注意する。

3

防油堤の点検管理を適切に行う。  
〈ひび割れの点検、水抜きバルブの管理など〉

4

油水分離槽の維持管理を適切に行う。  
〈定期的に清掃を行うなど〉

5

油が流出したら、適切に応急措置を行い、消防、市町村または県（環境センター）に連絡する。

新潟県 油流出事故防止

検索 



新潟県県民生活・環境部環境対策課

新潟県

## 事例1

## 平成26年12月 湯沢町 信濃川水系魚野川

### ●概要

魚野川支川で油膜があると通報があり、消防、町及び県が現地を確認した結果、上流にある事業者が原因と判明した。町及び県等は油膜の流出を防止するため吸着マット及びオイルフェンスを設置した。

### ●原因

屋根融雪装置用の暖房施設に自動で給油する装置が故障しており、修理を手配していた。

しかし、修理が終わらないうちに雪が降り、手動で操作したところ、適切な時間より長く給油したため、タンクから漏えいした。

原因者は、原因調査していた消防等に指摘されるまで漏えいしていることに気が付かず、それまで数日に渡り、数回、同様の給油を行った。

### ●流出量

推定16,000 L



【水路に設置した吸着マット】

## 事例2

## 平成27年1月 十日町市 信濃川水系信濃川



【信濃川に広がる油膜】



### ●概要

事業場内の油臭に気付いた従業員が調べたところ、配管が破損しA重油が漏えいしていることが判明し、消防に連絡した。

また、信濃川に油膜が流れていると通報があり、国及び県等が現地を確認した。

油膜は、発生源から約30km下流の信濃川でも確認され、国はオイルフェンス、吸着マット及び簡易油水分離槽の設置等を行い、流出を防止した。

### ●原因

積雪の重みで配管が破損した。

破損箇所は防油堤の中だったが、防油堤の水抜きバルブを閉め忘れていたため油が流出した。

### ●流出量

約5,000 L

## ■ 水質汚濁防止法に基づく「事故時の措置」について ■

- 水質汚濁防止法第14条の2第3項において、貯油施設※を設置する事業者は、事故などで油が河川などに排出され、または地下に浸透したことにより生活環境に係る被害が生ずるおそれがあるときは、①排出または浸透の防止のための応急の措置を講ずるとともに、②速やかにその事故の状況及び講じた措置の概要を県知事または水質汚濁防止法政令市長に届け出なければならないと規定されています。

※重油、灯油、軽油、揮発油等を貯蔵する貯油施設及びその油を処理する油水分離施設